

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6				個室やパーティションを使用し適切に使用できている	スペースを有効利用して、子ども達が過ごしやすい環境を作る
	2	職員の配置数は適切である	5	1				個別療育に専念できる人員があるともっと良い
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	1		1	部屋ごとにマークがついていてわかりやすい	入り口がバリアフリーではないが危険がないように気を付けている
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間になっている	6				壁面などを少なくし子供たちが心地よく過ごせるようにしている	換気・消毒に今後も気を付けていく必要がある
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5			1		時間をより多く設けられるよう考えていく
	6	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6				保護者の評価表をシェアすることで理解している	
	7	この自己評価の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その支援の質の評価及び改善内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6					
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4		1	1		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5		1		外部の先生を招いて研修を行うことで学び支援につながっている	職員から希望を聞き研修を組んでいく
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5		1		評価マニュアルを使って評価している。	定期的に個別に評価できるようにしていく
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5		1		NCプログラム、社会生活尺度を利用し評価している	全職員が適切に評価できるようにしていく
	12	児童発達支援計画書には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子供の支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6				児童発達管理責任者が適切に評価し支援内容を作成している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6				個別に合わせて考えている	継続していく
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	1	1		ミーティングを設けて行っている	もう少し意見を出していく
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	1			毎月週ごとに変えたり、その日によって変えたり工夫している	子どもに合わせて組んでいく

適切な支援の提供	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	6				子どもの発達に合わせて用意している	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6					
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5			1	その場にいる職員にはその日のうちに共有できている	
	19	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6				連絡帳や写真で様子や行ったことがわかる	
	20	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5			1	定期的におこなっている	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6					
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5			1		
	23	医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等の在宅支援のために、地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			2	4	対象児がいない	
	24	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			2	4	対象児がいない	
	25	保育所や幼稚園、認定こども園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、移行に向けた支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5			1	送迎時に様子など情報共有できている	
	26	小学校や特別支援学校(小学部)との間で、移行に向けた支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	1		1	4		
	27	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5		1			
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1		4	1	以前はあったが、今はコロナの関係で出来ていない	感染症対策を取りながら安全に交流できる日をもてるとよい
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3		1	2	定期的に参加している	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5			1		
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4		1	1	保護者会を開くことによって保護者会のニーズを聞いて支援方法を伝えている	

保護者への説明責任等	32	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5			1			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5			1			
	34	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6					連絡帳、面談、相談があったときは助言したり、共有している	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6					お話し会などで保護者同士のつながりがもてるようになってきている	保護者のニーズに合わせていけるとよい
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6						
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6					毎月おたよりを配布し、行事や連絡事項を載せている	
	38	個人情報に十分注意している	6					重要なものは鍵付き書庫で管理されている	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6						
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5				1		
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6					コロナウイルスの対応については文面で保護者に伝えることが出来ている	回数をもう少し増やして行うことを検討
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6					定期的に避難訓練をおこなっている	回数をもう少し増やして行うことを検討
	43	事前に、予防接種やてんかん発作等のこどもの状況を確認している	5				1		
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3			1	2	対象児なし	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	2			3	1		
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3			2	1		
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	2			2	2		